



2025年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社ソフト99コーポレーション
代表者名 代表取締役社長 田中 秀明
(コード: 4464 東証スタンダード)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 上尾 茂
(TEL. 06-6942-8761)

第7次中期経営計画“Evolve!!”最終年度計画値の見直しについてのお知らせ

2023年4月にスタートし、2年経過いたしました第7次中期経営計画“Evolve!!”について、各セグメントの状況及び、最終年度計画値の見直し（当初最終年度計画値と2026年3月期における業績予想との差異）についてお知らせいたします。

記

第7次中期経営計画“Evolve!!”は、気候変動や人口減少などソフト99グループを取り巻く環境が現在進行形で変化している中、新たに発生する社会課題の解決に向けて既存の延長線上の考え方・行動から脱却するため『Evolve(進化せよ)』をテーマに、新たな価値の創出と事業規模拡大を目指してまいりました。

連結損益の概況についてファインケミカルセグメントにおいては、ロシアによるウクライナ侵攻により他社製品の仲介取引から撤退したことや、近年夏場における極端な気温上昇により、ボディケアをはじめとした一般消費者向け製品販売が苦戦するなど事業環境の変化による業績への影響が見られました。

ポーラスマテリアルセグメントにおいては、生成AIなどの需要拡大による半導体用途向けの製品の出荷が伸長したことや工場の好調な稼働により原価率が改善したことでグループ全体の利益の伸長に大きく貢献、2年目で7次中計最終年度計画値を達成いたしました。

設備投資についてはデジタル活用強化の一環としてファインケミカルセグメントの基幹システムの更新と機能強化を実施したことで減価償却費などの費用が増加いたしました。

また、最終年度はファインケミカル一般消費者向け製品販売の強化を目的に広告宣伝費や販売促進費の増加を想定しております。

つきましては上記の事業環境などを踏まえ、最終年度における計画値（2026年3月期業績予想）について見直しいたします。

◆ セグメントごとの状況と修正計画値について

➤ ファインケミカルセグメント

ファインケミカルセグメントは、海外事業においてロシアのウクライナ侵攻により他社製品の仲介取引から撤退したことや一般消費者向け製品販売において近年夏場における極端な気温上昇など気候変動に起因したカーケアニーズの変化を捉えきれなかったことなどを要因にボディケアを中心に販売が計画を下回る想定をしております。また、家庭用製品販売においてコロナ禍でマスクの着用が常態化したことにより通年で販売が伸長したメガネケア製品販売の更なる販売拡大を図ってまいりましたが、マスク着用率の低下や暖冬などの季節的な要因により販売が計画を下回る想定をしております。

中計最終年度は一般消費者向け製品販売においてボディケアを中心にプロモーションを強化し次期中計へのステップアップを見据え、計画外での広告宣伝費・販売促進費の増加を想定しております。またデジタル活用強化の一環として基幹システムの更新と機能強化を実施したことによる減価償却費の増加を想定しております。

これらの状況を要因に、ファインケミカルセグメントの最終年度の計画は、当初中期計画の売上高、セグメント利益を下回ることになりました。

(単位：百万円)

ファインケミカル	売上高	セグメント利益
当初発表計画 (A)	15,650	2,600
今回修正計画 (B)	14,100	1,690
増減額 (B) - (A)	▲ 1,550	▲ 910
増減率 (%)	▲ 9.9	▲ 35.0
2025年3月期 (ご参考)	13,652	1,837

➤ ポーラスマテリアルセグメント

ポーラスマテリアルセグメントは、生成 AI などの需要拡大による半導体市場の急成長を背景に産業資材の半導体向けの販売が伸長していることから計画を上回る想定をしております。併せて工場の稼働も改善していることから利益面も好調に推移すると想定しております

一方で、生活資材の海外向け販売において物価上昇を受けて北米エリアでの販売が苦戦、また医療分野も病院施設向け医療廃棄物減容装置の販売が停滞したことで計画を下回る想定をしております。

これらの状況を要因に、ポーラスマテリアルセグメントの最終年度の計画は、当初中期計画の売上高を下回るものの、セグメント利益は上回ることになりました。

(単位：百万円)

ポーラスマテリアル	売上高	セグメント利益
当初発表計画 (A)	9,200	830
今回修正計画 (B)	9,170	1,500
増減額 (B) - (A)	▲ 30	+670
増減率 (%)	▲ 0.3	+80.7
(ご参考) 2025年3月期	9,094	1,677

➤ サービス・不動産関連セグメント

サービス・不動産関連セグメントは、生活用品企画販売事業において生協向け販売が苦戦したことで計画を下回る想定をしております

一方で、S I 事業（旧温浴事業）において極楽湯尼崎店が業態変更を伴う大規模リニューアルのため閉店いたしました。既存店舗（東大阪店・枚方店）は積極的なイベントの実施などによりお客様の来店が増加したことや飲食が好調に推移していることから計画を上回る想定をしております。また自動車整備钣金事業においてコーティング・フィルム施工などの美装事業が新たな柱として成長しつつあることや、主力の钣金事業もレバレーの引き上げによる1台あたりの修理単価の上昇や新規開拓が奏功し売上が増加していることから計画を上回る想定をしております。

これらの状況を要因に、サービス・不動産セグメントの最終年度の計画は、当初中期計画の売上高、セグメント利益を上回ることになりました。

(単位：百万円)

サービス・不動産	売上高	セグメント利益
当初発表計画（A）	6,850	350
今回修正計画（B）	7,030	440
増減額（B）－（A）	+180	+90
増減率（％）	+2.6	+25.7
（ご参考）2025年3月期	6,995	507

これらの結果、第7次中期経営計画最終年度計画数値（2026年3月期の連結業績見通し）は、売上高30,300百万円、営業利益3,630百万円、経常利益、3,820百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,520百万円となりました。

(単位：百万円)

連結業績	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
当初発表計画（A）	31,700	3,780	3,960	2,770
今回修正計画（B）	30,300	3,630	3,820	2,520
増減額（B）－（A）	▲1,400	▲150	▲140	▲250
増減率（％）	▲4.4	▲4.0	▲3.5	▲9.0
（ご参考）2025年3月期	29,742	※4,033	4,229	2,913

※ 連結調整額を含む

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なる事があります。

以上